

## 主な製品の売上高の状況と見込み

製品名	2016年度 売上高(実績) (億円)	対前期 増減率	2017年度 売上高(見込み) (億円)	対前期 増減率
オプジーボ点滴静注	1,039	+ 391.3%	740	△ 28.8%
グラクティブ錠	294	△ 6.5%	295	+ 0.4%
オレンシア皮下注	116	+ 44.5%	145	+ 25.2%
オバルモン錠	170	△ 25.0%	140	△ 17.8%
リカルボン錠	113	△ 0.0%	110	△ 2.6%
フォシーガ錠	78	+ 82.6%	100	+ 28.1%
リバスタッチパッチ	89	+ 13.1%	100	+ 12.9%
イメンド／プロイメンド	99	+ 4.3%	100	+ 1.2%
カイトロリス点滴静注用	20	(2016年8月発売)	60	+ 206.1%
オノアクト点滴静注用	57	+ 0.3%	60	+ 4.8%
オノンカプセル	68	△ 24.2%	55	△ 19.0%
ステープラ錠	48	△ 7.6%	45	△ 5.7%
パーサビブ静注透析用	2	(2017年2月発売)	30	+ 1439.8%
オノンドライシロップ	41	△ 26.7%	30	△ 26.9%
フオイバン錠	38	△ 25.7%	30	△ 21.7%
キネダック錠	29	△ 29.5%	25	△ 13.2%

## 二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ® 静注透析用」新発売

本年2月に、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ® 静注透析用」を新発売しました。二次性副甲状腺機能亢進症は慢性腎不全の合併症のひとつで、副甲状腺から副甲状腺ホルモンが過剰に分泌されることにより、骨から溶け出したリンおよびカルシウムが血中へ流出し、骨痛や関節痛などの症状が起こるととも



に、全身の血管に蓄積することで動脈硬化などの心血管系障害の発症リスクが高まり、生命予後に影響を及ぼします。本剤は、副甲状腺にあるカルシウム受容体に作用して副甲状腺ホルモンの過剰な分泌を抑制し、血中のリン値およびカルシウム値を低下させる薬剤で、注射剤であることから透析ルートからの投与が可能になり、透析患者さんのより確実な服薬管理が期待できます。